学会口頭発表

日本健康医学会・第20回大会要旨集

地域における健康教育に関する研究　―肥満教室利用者からみた教育の新たな課題―

渡辺順子（東京聖栄大学）吉野知子（愛全園）
梶井康子　真下みどり　浜野美代子（東京家政学院大学）

【目的】地域での健康教育で、エゴグラムを活用し自我の特徴と行動変容を試みた。教室での効果と教室終了２年後のエゴグラムと健康管理の学習効果について調査した結果より、健康教育の新たな課題を検討した。
【方法】対象者は、神奈川県相模原市（旧城山町）在住の健康づくり教室参加者女性 84 名。30 代 11 名、40 代 36 名、50 代 37 名である。【結果および考察】１）身体構成の変化とエゴグラムの関係では、30 代は体重減少平均 2.6kg で、A（大人の自我状態）と関係が見られた。40 代は体重減少平均 2.1kg であり、エゴグラムとの関係は見られなかった。50 代は体重減少が平均 1.5kg、体脂肪量は平均 1.2kg で有意に減少し、HDL コレステロールも上昇し、低値であった FC（自由な子ども）が教室参加で高値となった。２）教室終了２年後のエゴグラムは、変化がなかったが合計得点が有意に高値となった。健康意識は高まったが、実施状況は、体重管理、血圧測定で実施者は 50%、毎日食生活に気をつけている者は 12.5%、運動実施者は 37.5%、家庭に生かしている者は 37.5%であった。中高年女性の健康管理は、心と身体の調和と環境を捉えた支援が大切であり、ヘルスケアシステムの実現に努力が必要である。

学会口頭発表

第69回　日本公衆衛生学会　示説発表　1505－41　G602

管理栄養士養成における「包括的計画論―workshop 方式」の教育効果について（第２報）

○鈴木三枝[1]、小林陽子[2]、風見公子[3]、豊川裕之[4]
東京聖栄大学[1]、帝京平成大学[2]、人間総合科学大学[3]、元東邦大学医学部[4]

要旨
【目的】管理栄養士に必須である知識・技能・態度及び考え方の総合的能力を養うことを目標に、「社会・環境と健康」、「食べ物と健康」、「基礎栄養学」、「応用栄養学」、「栄養教育論」、「臨床栄養学」、「公衆栄養学」、「給食経営管理論」等を有機的に関連付ける総合教科目とし、「総合演習：包括的計画論演習～workshop 形式・演習３単位」をカリキュラムに設置した。この教科目では、実社会において当面する正解が提示されない問題をブレーンストーミング（brain - storming）とディベート（debate）を通して、実現可能な方法・手段を企画し、評価する総合計画をグループワークする。これにより問題の解決方略と手段と議論の進め方、コミュニケーションの取り方を習得することができる。【方法】小集団討議・全体討議を繰り返す演習で、各グループが自主的に選んだ課題について実施計画を作成した作品の実用性および各段階のポストテストを集計・評価した。タスクフォースは、コメント及びヒントを与え、正答は与えない。段階ごとに討議を行い、各グループの作品を修正した後、次の段階に進むワークショップ方式による。研究対象は 2008 年度卒業生 41 名と 2009 年度卒業生 40 名である。【結果】この教科目によって学生が職場で当面する問題解決の方略手段及び取り組み方を擬似経験できた。また、受講後「考え方や知識の幅を広げられた」などの変化があった。学生の意識の改善が著しく、他の教科目では得られない効果があったと思われる。